

# 会報

2005. 3. 10

第 39 号

## 戦没船を記録する会

〒105-0014 東京都港区芝2-8-43 睦マンション206  
Tel:03-3452-5085 FAX:03-3452-2711 郵便振替001606-719515

## 目次

第12年度を迎えて 会長 川島 裕	1
第12年度活動方針案、活動報告	2-3
会員・読者からのお便り	3
通信士組合からの寄付金の取扱いについて	4
被爆51年目のピキニデー	4
客船珠丸が触雷沈没	5
漁船・機帆船の記録整備・保存活動	6-7
事務局より・収支報告	8

### 第12年度を迎えて 戦争で息子を失った 親の悲しみ

会長 川島 裕

『春は名のみ風の寒さや』の歌詞のような平和な春は未だ遠いようです。

昨年は、台風、地震、津波など自然災害に禍される一方で、国外ではイラク戦争、国内では残忍な犯罪の続発に心を傷ましめられた一年でした。そんな中で第12年度を迎えました。今年度も皆様のお支えをお願い申し上げます。

今年は、日露戦争終結100年、太平洋戦争敗戦60年の節目の年です。日露戦争から太平洋戦争までの40年間は、シベリア出兵、第一次世界大戦、日中戦争など戦争の歴史そのものでありました。

しかし、太平洋戦争の敗戦で、かつての植民地をすべて失い、国土は焦土と化し、多くの若者は死地に追いやられ、また約800万トンの船舶を喪失し、6万人以上の戦没船員を出し、銃後の国民は不幸のどん底に陥られるにおよんで、日本の国民は平和憲法を制定し「今後永久に戦争は致しません」と世界に宣言しました。

このことから戦後の60年間は、国外ではベトナム戦争、イラン・イラク戦争、湾岸戦争その他の戦争や紛争があったにもかかわらず、日本は、戦争には一切加担せず、ひたすら平和を守ってきました。

しかるに、この度のイラク戦争では、専守防衛のための自衛隊を海外派兵し、これを正当化するために永遠に戦争をしないことを誓った日本国憲法を改正しようとしています。真に憂慮に堪えません。

さて、私は今年も3.1ピキニデーの平和行進に参加してきましたが、その時、級友の高橋潤次君に会いました。彼は、太平洋戦争で右手を失いましたが、海軍士官であったため優先的に手術を受け一命を取り止めました。後回しにされて死亡した兵隊もいたといひます。



高橋君は、戦後一貫して平和運動にその身を捧げてきました。2004年12月、彼の長女で詩人の中村ひろみさんは、「父からのバトン」という詩集を刊行されました。その中に、高橋君の戦傷と戦後の平和活動の様子が詠われています。

しかし、悲しいことにひろみさんは、今年1月26日、病気のためこの詩集を遺して亡くなりました。

父の高橋潤次君は、私に言いました、「戦争で息子をなくした親の深い悲しみがよくわかったよ」と。

## 第12回定期総会告示

戦没船を記録する会 会長 川島 裕  
会則の定めに従い、下記により第12回定期総会を開催します。

奮ってご参加ください。

記

日時 2005年4月15日(金) 14時より  
場所 東京浜松町海員会館 第1会議室  
(港区海岸1-4-9 JR浜松町駅下車)  
議題 第11年度活動報告・決算報告  
第12年度活動方針・予算  
規約改正・その他

## 第12年度活動方針(案)

昨年は相次ぐ台風の襲来や新潟県中越地震で、全国各地に大きな災害をもたらした。年末のスマトラ島沖地震とインド洋全域への大津波は、この地域全体に大きな被害をもたらした。国の内外で災害の復旧と被災者の救援が急務となっている。

イラク戦争は2年目を迎えたが、米大統領の戦闘終結宣言後も、むしろアメリカ軍の攻撃が激化し、ファルージャ攻撃のような徹底した都市と市民生活の破壊が続けられ、イラク市民とアメリカ兵の死傷者が増え続けている。戦争の大義とした大量破壊兵器は発見されず、アメリカは調査委員会そのものを撤退させた。治安の悪化する中で1月末に暫定国民議会選挙が行われたが、選挙の正当性が問われ、治安の一層の悪化が懸念されている。

小泉政権は米国に追従して、自衛隊のイラク派遣1年延長を決めたが、一方では年末に閣議決定した新防衛計画大綱で、自衛隊の海外活動の本来任務化をうたい、中国を仮想敵国として、戦争をする国に改変するための憲法改正が声高に言われる状態になっている。また、在日米軍再編をめぐる動きの中で、日本が米軍の世界規模の先制攻撃出撃基地としての役割を負うこととなり、平和と海上の安全にとって極めて重大な状況にある。

資源の乏しいわが国にとって、海上輸送はすべての産業と国民生活に不可欠のものであり、その安全が脅かされるようなことは絶対許されない。従ってわれわれは、海を再び戦場にしてはならないとの決意のもとに、活動を展開して来たものである。

戦後60年に当たる第12年度を迎えた今年は、従来の活動を更に充実させるとともに、これまで取り残されがちであった、戦没漁船・機帆船の記録の収集・保存について、積極的に取り組むこととする。

「漁船の太平洋戦争」を主題にした気仙沼展の好評から、漁船・機帆船関係の資料の提供も促進され、また、船舶通信士労働組合の寄付を得て、資金面の裏付けを得たので、それら調査と資料の有効活用のために、可能な努力をしていくこととする。

そのため、以下の活動に取り組む。

- 1、戦後60年、「戦没した船と海員の資料館」開設5周年記念事業を、全日本海員組合と共同して進める。具体的には実行委貴会などを設置し、海員組合と協議、調整して推進する。
- 2、資料の作成、既存の展示パネル、アルフォートの整理・補修・新替え。

- 3、資料のデータベース化。

戦没船員名簿

日本船名録(昭和17年・22年版)

徴用漁船・機帆船名簿

- 4、ホームページの開設。

- 5、各地のパネル展に積極的に参加するとともに、本会独自展の実現を図る。

第12年度予算案一般会計については例年通りとして、予算案を作成しない。

## 第11年度活動報告

### 1、組織の状況

会員の高齢化が進み、また、本会の広報活動が不十分で、その動きが目に見えにくいことなどから、会員数の増加は期待出来ない状況であるが、今年度は2名の新規会員の会費納入があった。いずれも「日本海軍特設艦船正史」購入者に、著者の正岡勝直本会理事が働きかけた結果であった。

本年度末の会員数は正会員70名、賛助会員29名であるが、今年度会費納入者はそれぞれ51名、17名であった。また、これら会員に昨年末に完成した「戦没船を記録する会十年史」を送付して、制作費カンパをお願いしたところ、協力をいただいた会員は92名であった。

創立以来さまざまな協力をいただいていた船舶通信士労働組合が、その本拠とした「無線会館」を04年12月に売却することとなり、所有資産の一部を本会の活動資金にと、600万円を寄付していただいた。本会としてはこの資金を、資料の収集・保存やその活用のために使用する計画を練っている。

### 2、理事会の開催

2004年11月8日、第11年度第1回理事会を開催した。

主な議題は「戦没船を記録する会十年史」完成に至る経過報告と頒布、配布、寄贈の方法、資金計画、頒布価格などの審議決定 海員組合定期大会でのパネル展開催と十年史の頒布 船舶通信士労働組合からの提供資金(600万円)の管理、使途 戦没船員名簿、日本船名録等のデータベース化、所有するアルフォート、資料パネル整理など当面の活動の進め方。その他。

2005年2月17日、第2回理事会を開催。

第12回定期総会に関連する諸問題の審議、決定。第11年度活動報告、決算報告 第12年度活動方針案 「戦没した船と海員の資料館」開設5周年記念事業、その他について 特別資金

(船通労寄付金)の管理、使用計画及び予算案。その他の審議、決定。

### 3、事業内容

#### A、十年史の刊行

第10回定期総会で「戦没船を記録する会十年史」刊行の方針が決められ、前年度中に5回の編集委員会が持たれ、十年史の構成内容と執筆担当者が決められ、原稿が集められた。今年度に入り6回の編集委員会で、原稿の内容と章立て等について徹底した検討、修正が行われ、8月11日に印刷に回した。その後校正のため3回の編集委員会が持たれ、11月5日に完成、納本された。

十年史は全会員にカンパ(1冊につき2000円)の訴えと共に送った。また、国会図書館など図書館や平和資料館などと、友誼団体、海事団体などに寄贈した。「海上の友」や「日本海事新聞」、「世界の艦船」などで紹介されたことによる購入申込みもあった。理事会で理事・編集委員に1人1万円カンパを訴えたため、十年史カンパと代金が67万円余集まり、印刷費と送料をカバーすることが出来た。

#### B、パネル展の開催

##### 海王祭のパネル展

東京商船大学と東京水産大学が合併して「東京海洋大学」が誕生したが、東京商船大学伝統の「海王祭」が、6月5・6日に越中島キャンパスで開催され、「戦没船パネル展」が行われた。展示内容は戦没船アルフォート、トラック島の戦没船と海底に残る遺骨、太平洋戦争以後の戦争・紛争による船舶・船員の被害、大久保画伯の「戦時徴用船の最後」のコピーなどが展示され、400人以上が参観に訪れた。

##### 「2004平和のための戦争展 in よこはま」

戦後50年を契機に始められた横浜の戦争展も、今年で10回目を迎え、5月28日から30日まで横浜駅西口の「かながわ県民センター」で開催された。また横浜市議会が「横浜市非核兵器平和都市宣言」をした20周年の年にも当たる今年は、「見つめよう語り合おう戦争の過去といま」をテーマに開催された。

戦没船を記録する会はこの戦争展に最初から参加しているが、今年は戦没船アルフォート写真など通常の展示のほか、第5福竜丸の被爆50周年に当たることから、第5福竜丸関係のパネルを展示館から借り出して展示した。この展示は広島市の被爆者の会の原爆パネル、森住卓さんのイラクの劣化ウラン弾による奇形児のパネルと重ね合わせると、すべてアメ

リカ軍によって行われたもので、深い憤りを新たにするものであった。

##### 埼玉の戦争展

7月28日から8月2日まで、浦和駅前のパルコ7階で「平和のための埼玉の戦争展」が、「戦争のない世界をつくろう」をテーマに開催された。この戦争展への本会の参加は6回目になる。

本会の今年の展示内容は、太平洋戦争以降の戦争等による日本船舶・船員の被害、臨戦体制の例証、船員の戦後は終わっていない、都道府県別戦没船員数表、戦没船沈没位置図、戦没船アルフォート等。

#### C、資料の整理等

船舶通信士労働組合からの資金提供を受けて、資料の整理等に取り組むこととし、可能な範囲から着手した。戦没船員名簿のデータベース化、「日本船名録」の昭和17年版・昭和22年版のデータベース化、徴用漁船・機帆船名簿の作成とデータベース化、戦没船アルフォートの追加と破損分の制作、戦没船を記録する会のホームページ立ち上げ、保有する展示パネルの補修・新替え整理等の準備を進めている。

#### D、「日本海軍特設艦船正史」頒布

正岡勝直理事の著書である「正史」を、本会で頒布して欲しいとの要請があり、80部を頒布した。1冊3000円(包装・送料400円別途)で頒布し、1冊につき2000円を刊行原価として払い戻した。

#### E、会報の発行

十年史刊行に多くの時間を取られたため、会報の発行は2004年10月10日第38号、2005年3月1日第39号の2回に終わった。

\*\*\*\*\*

#### 会員・読者からのお便り(敬称)

\* 本代2000円+カンパ2000円。

ご苦勞様、立派な年史です。有難うございます。お手伝い出来ず申し訳ありません。現在、感冒と喘息に悪戦苦闘中。(新藤博志)

\* 「戦没船を記録する会十年史」をお送りいただき有難うございました。十年史に会員の名簿があり、その中には新潟の方も数名おられるようです。私事ですが神戸の地震ではパニックでした。仕事上また家庭の都合でボランティアには参加できませんし、私には何も出来ませんが、被災者の皆さんを心から応援しています。(福山善郎)

\* 十年史、誠に有難うございます。

今後とも微力ながら応援していきたいと思っております。頑張つて下さい。(梅田光明)

# 通信士組合の寄付金の取り扱いについて

通信士組合から昨年11月25日、本会に600万円の資金が寄付された。この寄付金の管理、運用については、会則第24条に基づいて、以下の細則を設けることとする。

## 【特別資金細則】

- 1、船舶通信士労働組合の寄付金の管理・運用については、この「特別資金細則」による。
- 2、この資金は、次の事業を推進するために使用する。

戦没船関係記録の収集、整備、保存に関する事業。

本会の行う戦没船展示会、共催・共同参加の展示会開催の事業。

その他、理事会が必要と認めた事業。

- 3、この資金の管理は、会則の定めに基づきとする。
- 4、この資金の運用は、2005年1月1日から開始する。
- 5、その他必要な事項が生じたときは、理事会でし、総会に報告するものとする。
- 6、この資金の用途に係る旅費、交通費の扱いは以下の通りとする。
  - a 旅費・交通費・・・・・・・・・・実費  
(鉄道・バス・タクシー・船・航空機等、普通車・特急寝台を含む)
  - b 宿泊費・・・・・・・・・・1泊につき6000円  
但し車中泊は半額。
  - c 補助費(食事代雑費)・・1日につき1000円

## 「特別資金」の今年度中

### (05年3月まで)の事業予算

- 1、戦没船員名簿のデータベース化100,000円  
(パソコン入力=業者委託外の2.2万人分の整備・付帯費。業者委託分は次年度)
- 2、戦前の日本船名録(昭和17年度・22年度分)  
・・・・・・・・・・610,000円  
(業者委託入力56万円(@14円×4万隻分)、チェック・整備費5万円)
- 3、徴用漁船・機帆船明細表作成とデータベース化  
・・・・・・・・・・160,000円

(資料費=10万円、パソコン入力協力謝礼・付帯費6万円)

- 4、徴用漁船の現地調査、資料集めの交通・旅費  
・・・・・・・・・・30,000円
- 5、パネル整備費・・・・・・・・・・350,000円  
(パネル板購入費30万円(@2000×150枚)、活動・交通費5万円)
- 6、未払い旅費(気仙沼展分)・・・・10,000円  
合計・・・・・・・・・・1,350,000円

注) \*1の費用は、三田さんの入力データ(旧式)を利用可能に修復する費用を含む。未入力のもの、自力と業者委託により入力する。

\*2・3のデータベース化により、戦没船の把握、戦没船員の汽船、漁船、機帆船など所属が識別可能になる。また、戦没漁船・機帆船の船籍港、乗組員、沈没場所の解明・確認が可能になる。

特別資金05年度予算案については、総会までに作成、提案する。

## 被爆51周年ビキニデー

戦後60年に当たる今年の3月1日、ビキニ被爆51周年の「3・1ビキニデー」が焼津市で開かれ、この集会参加12回目となる今年も、本会会員を含む「海の平和問題懇話会」のメンバー12人が参加しました。

前日の2月28日にはさまざまな集会が開かれる中で、私たちは「虹の広場」の集会に参加し、夜は懇談会、懇親会を行いました。

3月1日には午前中、久保山さんの墓参行進、午後から焼津文化センターに1,800人が集まった「ビキニデー集会」に参加しました。この集会では焼津市長挨拶や広島・長崎市長からのメッセージの紹介、海外代表の発言や第5福竜丸の大石又七さん、マーシャルから出席のアンジャンさんなど被害者の発言、パネル討論などが行われました。

特に今年は、2000年5月のNPT(核拡散防止条約)再検討会議で、核保有5カ国によって約束された、核兵器の完全な廃絶への動きが全く前進していないことから、6月にニューヨークで開かれるNPTに向けて、核兵器廃絶に向けた、大きな声と行動を世界的に広げていこうということが強調されました。(S)

# 終戦の60日後に蝕電沈没

## 客船珠丸の遭難記録

「戦没船を記録する会十年史」を読まれた元会員の西口公章さんから、本書の「第2次世界大戦以後の日本船舶・船員の被害」の中に「珠丸=たままる」が記載されていない、として、対馬新聞社刊「戦後対馬30年史」、「毎日新聞の『長崎県の戦後史』珠丸撃沈」、「長崎新聞の『珠丸遭難記出版』」など、関連する皆さんの資料のコピーを送っていただいた。

本会の「知られざる戦没船の記録上下巻の「喪失船舶明細表」には、終戦後の欄があり、その49隻の中に「珠丸」も含まれている。そのうち沈没原因が電撃3、空爆3のほかはすべて触雷によるものであるが、統一した詳細な記録がないためか、死亡者数などは記載されていない。

送っていただいた記録その他を総合すると、珠丸(800トンは九州郵船所属の客船で、終戦当時、博多-厳原 比田勝(対馬北端の港)の定期航路に就航していた。

昭和20年10月14日、比田勝での321人の乗客と合わせ、乗員乗客730人を乗せ、0600厳原を出港した珠丸は博多に向けて航海についたが、0850ころ、壱岐勝本沖に差ししかかったとき触雷、突如爆音とともに船体が逆立ちして、瞬時に沈没した。

船内から脱出できた乗員乗客で、付近の漁船などによって救助された者は185人で、545人は珠丸と運命を共にした。

このときの遭難者は、乗客名簿から割り出したものであるが、当時対馬には、敗戦のどさくさに紛れて、朝鮮半島から漁船などによる引揚げ者が多数滞在しており、また、台風による欠航で足止めされていた人たちが多数いて、無切符の割り込み乗船した者を含めると、乗船者は1千人を超えていたので、犠牲者の数はもっと多かったのではないかと見られている。

この事件は戦後の混乱期に起きているため、地元でもあまり報道されず、戦争中多くの戦没船の事故を見なれていたこともあって、関心と呼ばなかったのかもしれないが、事故の26年後に珠丸遭難者の遺族会が、厳原の対馬ビジターセンターに慰霊碑を建立し、生存者が救助された壱岐にも慰霊碑が建てられているという。ただ、乗船者名に記録されていない犠牲者

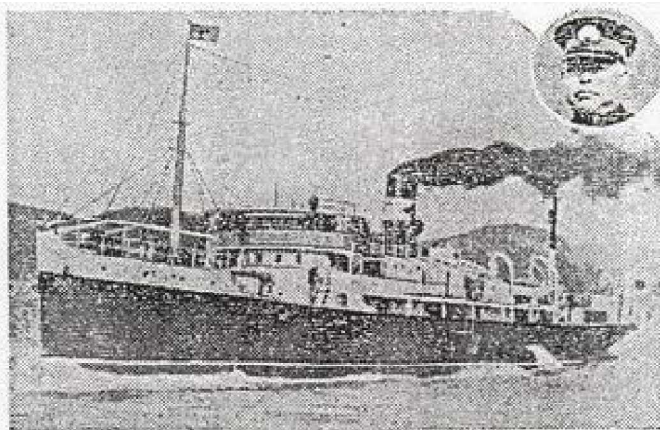
は、名も知られないまま永遠に海底に眠り続けているだけである。

また、沈没原因となった機雷については、米軍の本土進攻に備えて日本軍が対馬海峡に敷設した2千個の機雷で、掃海が終わらないうちに台風でケーブルが切れ、それに珠丸が当たったものとしている。「珠丸撃沈」の新聞記事では、遭難現場付近には掃海艇が7、8隻目撃され、当然助けにくるものと思っていたが、気にとめる様子もなく作業が続けられ、機雷処理による爆発で、漂流中の人々がショック死した、と書かれている。

しかし、当時米軍が日本全国に投下した機雷は約1万1千個といわれ、とくに関門海峡には4990個、博多、唐津、佐世保地区には420個という記録がある(本誌8号記載)。従ってどちらの機雷によるものか、断定は難しいかもしれない。

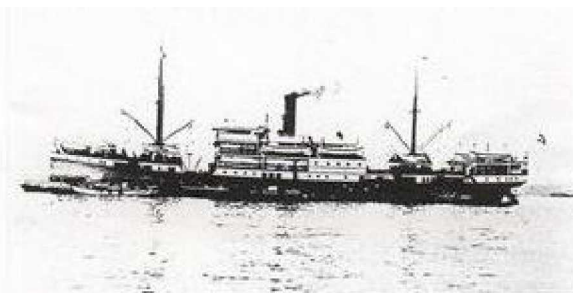
戦後の船舶被害では、終戦直後、国籍不明の潜水艦

の魚雷攻撃を受けて沈没した、樺太からの引揚げ者を乗せた泰東丸、触雷によるものでは朝鮮人労務者を本国に送還途中、舞鶴港内で沈没した浮鳥丸、瀬戸内での旅客船女王丸などの大量遭難事件が有名だが、一般的にはその調査、研究はあまり進んでいないように見える。これは、



ありし日の珠丸(円内は斉藤船長) = 対馬厳原 中村、藤野正雄氏提供

われわれにとって今後の課題であるかも知れない。



八洲丸(1,873ト) 拿捕船、オランダ籍Mijier  
昭和18年1月23日、セレベス島南岸サラヤス水道東方70km付近で被雷沈没。備砲隊1名、船員7名戦死。  
(溝辺修関西支部長が収集)

# 戦没漁船・機帆船

## の記録収集・保存活動

理事 栗原 三郎

2月17日の本会理事会において「戦没漁船・機帆船の記録収集・保存に積極的に取り組むことを総会に提案する」ことが決定された。

### 若干の経緯

当事者や関係者による太平洋戦争時における実態の記録と保存活動が各方面でなされておるが、本会も船員関係者として、戦没船(員)についての記録・保存活動を10年以上にわたって行ってきた。

その主体は民間商船であったが、戦没漁船・機帆船についても早い時期から折に触れて話題とされ、会報にも関係記事が掲載されてきた。

2002年1月に「知られざる漁船の戦い 宮城の徴用漁船群」が出版され、これに触発されたこともあり、2002年末頃より「気仙沼において『漁船の太平洋戦争展』をしよう」との話が持ち上がり、その準備も含めて第10回総会(2003年4月開催)において、活動方針の1つとして「従来掘り起しが不十分であった漁船・機帆船関係の資料収集に努める」ことが決められ、研究者の資料提供と協力を得ながら、半年がかりで展示パネル作成等の諸準備を進め、開催にこぎつけた。幸いにも展示会は、関係者の大きな関心呼び、好評を博した。

これを機に戦没漁船・機帆船への関心が高まり、毎年度の活動方針にも「漁船・機帆船関係の資料収集に積極的に努める」ことが掲げられるようになったが、特設監視艇(約400隻)については一定の進展を見たものの、大多数を占める一般徴用船については、資料不足と活動資金不足により、足踏み状態にあった。

2004年に入り、戦時漁船の研究者から資料提供がなされ、合わせて船舶通信士労働組合(通信士組合)から本会に相当額の寄付金が入る可能性が高まり、進展への可能性が強まったことにより、具体的取組への論議と構想が高まり、2月17日の理事会での決定に至った。

### 問題提起

その過程で、今なぜ戦没漁船なのか? 具体的には何をどうするのか? その実現の可能性は? 結果はどう役立つのか? - 等の問題提起がなされた。

いうまでもなく、これらの活動は本会として取り組んでゆくことであるが、もうひとつ全体像・具体的活動へのイメージが湧かないとの向きもあるように思われるので、小生なりの理解とイメージを提起し、議論と活動のためのたたき台となれば幸いである。

## 1、今なぜ戦没漁船なのか?

太平洋戦争は日本史上最大の出来事として、その実態の記録と保存活動は、種々の当事者や関係団体・個人によっていろいろな形で行われている。一般論として、戦没漁船に関する記録もできるだけ多く、正しく記録され、残されるべきもの。

加えて、太平洋戦争で戦没した漁船・機帆船は、3,665隻(経済安定本部発表)とされ、戦没した関係船員も3万人に及ぶものと見られる。当時の全船腹数・徴傭船数(陸海軍合わせると8千隻以上とも推定される)は明らかになっていないが、まともな船はほとんど徴用され、うち半数が戦没したのではないが、しかもその多くが、いわゆる1杯船主ではなかったかと思われる。

全体的な数量も膨大で、日本水産業・地方経済に壊滅的な被害を及ぼしたことも重大であるが、各家庭の働き手と財産を根こそぎ失うことは、家庭とその地域社会にその後も含めて計り知れない苦難を与えたとされる。

しかし、それらの実態記録は、あまり残されていない。従って、誰(どの船)が、何処で、どのように死んだ(沈んだ)のかが今日においても分かっていない部分が多い。なんとも酷く痛ましいことである。これらの実態記録が少しでも多く遺されることは必要である。他にそれをやる団体がない現状では、本会がやざるを得ないと思う。

一般的にも言えることであるが、実体験者(高齢化の中で激減)の証言等を得ることがより困難となっており、また、本会会員や関係研究者も高齢化しつつある。ここ2~3年がラストチャンスではないか。

他方、悩みの種であった活動資金が、幸いにも通信士組合から提供されるに至った。研究者や関係者の協力を得つつ、もう一踏んぱりする必要があるのではないか。

また、人の命が軽く扱われるとき、人間の尊厳・権利・生活が軽視される時、戦争(殺し合い)が起こりやすくなり、戦争がまたそれらを増幅させる悪循環となることを、先の太平洋戦争で身をもって認識させられた。これらの愚行は2度と繰り返してはならない。

われわれの努力が、結果してその役立ての1つとなれば以って瞑すべしである。

## 2、具体的には何をどうするのか?

本会には、戦没した商船について10年間やってきた実績がある、できたらそれと同じことを漁船・機帆船についてもやれたらベストである。

また、研究者により、残された原資料の収集・整備とその分析が続けられ、海軍関係と一部の地方については相当程度の記録が残されている。これに戦没船・船員関係を主体に欠落地方の記録を補充することとなるうかと思う。具体的には、

- ( 1 ) 戦没漁船・機帆船明細表作成  
船名・船舶番号・所有者・総トン数・繫留港・  
徴傭年月日・戦没年月日・戦没地点・死傷者数  
を主体とした船名別一覧表。
- ( 2 ) 各船毎の沈没前後の状況集作成  
沈没船の動静・沈没原因・沈没時の状況を( 1 )  
よりも詳細に記録する。
- ( 3 ) 戦没船の写真収集・長期保存  
アルフォトまたはより有効なもの。
- ( 4 ) 関係展示会開催  
等を行い、主要な資料はCD-ROMに収録し、関係方  
面に寄贈して保存する。

これらを実現する過程では、資料の発掘・整理・分  
析、分析結果を踏まえた個別または総合的記録(文書)  
の作成、資料のパソコン入力・データベース化、展示  
パネルの作成・整備、それらに伴う資料照合・文書校  
正、その他がある。

その上、対象が例えば、船名録は3年分で5万隻、船  
員名簿6万人、徴傭船4千隻、戦没船3,700隻等数が  
多く、それらの整備には多くの事務的作業が伴う。

汽船関係よりも大変ではなからうかと危惧される。

### 3、実現の可能性は

残された資料も商船関係よりも少なく、証言者も少  
ないことが予想されるので、商船関係と同程度の記録  
は作成できないかもしれないが、

- ( 1 ) 正岡理事が収集された資料が相当量あり、その  
分析・纏めも進んでおり、宮城県・静岡県・和歌山県  
関係は地元の研究者が詳しい資料を作られており、そ  
の他にも各地の郷土史や漁業史の中に徴傭船関係の記  
録が散見されるので、「戦没漁船・機帆船明細表」をこ  
れらの資料を基に整備し、繫留港別の明細表を元に関  
係地区と接触を図り、関係者の協力を得るとともに、  
本会からも出向いて調査に努め、新たな資料発掘に結  
び付けることも可能と思われる。
- ( 2 ) 通信士組合からの寄付金により、諸資料のデー  
タベース化、ホームページの開設とその運用、イン  
ターネットの活用拡大等が可能となるので、これらの  
有効活用により、現在ある資料の整備や関係付けも可  
能となるし、新たな資料の入手の可能性も高まる。
- ( 3 ) 現在進めつつある「昭和17年度・22年度の漁船  
船名録」と「戦没船員名簿」のデータベース化は「戦没漁  
船・機帆船明細表」の細目の整備を大いに進展させる  
可能性がある。

しかし、これらも人の手によるところが大部分であ  
り、本会の活動と関係者の協力が結果を左右すること  
となるので、本会の活動的会員の増加と協力者の発掘  
が重要となる。

とはいえ、現会員は高齢化してゆくし、若い会員の  
入会も望み薄、外部の協力者といっても多くは望めな  
い。これとて安易なことではないことは多くの会員が  
認識しているところであろう。

でも、あまり格好よく考えなくてもよいのではない  
か、現実を無視してやれるものではないのだから。好  
みの活動(作業)・やれそうなことを可能なペースで  
やってゆくことにしてはと思う。

直近の活動(作業)を例にとれば、前述の「漁船船名  
録」・「戦没船員名簿」による「戦没漁船・機帆船明細表」  
の整備(加除訂正)がある。

これは、細かな事務作業的なことで多少心気臭い  
が、自宅においてマイペースでできることだし、あま  
り根を詰めてやらなくてもよいように手分けしてやる  
工夫もできる。顔合わせ方々事務所に出てきて、だべ  
りながらやってもいいことでもある。

パソコン入力は、大物(大量)は業者に発注するもの  
もあるが、業者外の人(船員OB)に多少の手数料を  
払って依頼することも考えられる。これは安価と同時  
に、このことを通じて、本会の理解者・協力者・新会  
員にとの期待も込めて。

その他の協力者を得ることは、今までの人脈やこれ  
からの努力により進めてゆくしかないが、執念と粘り  
強い行動を重ね、展示会の開催と合わせて、実績が出  
てくれば不可能ではないと思われる。

### 4、結果をどう役立てるか

社会的に価値あるものができれば、自ずと活用者が  
現れ、役立つこととなるので、できるだけいいものを  
作り上げることが最重要である。しかし、今までの扱  
われ方や一般的風潮からすると、脚光を浴びるとか自  
ずと活用者が出ることはあまり期待できない。

それだけに、かえってわれわれ関係者が、歴史上の  
1資料として、社会に問える最低限のものを何とか残  
すことが必要といえるのではないが。

徴傭漁船の資料を整備し、展示や研究に役立てたい  
との向きも出ている。われわれの努力がこうしたも  
のへの一助となれば幸いである。

遺族やその関係者に展示会やCD-ROM等の提供によ  
り、戦没者の実態をより多く知っていただき、供養の  
一助となれば嬉しい。

また、希望団体・個人にCD-ROM等を無料または実費  
程度で提供することが考えられ、そのことによって、  
少しでもこの実態が世に知られれば有益である。

なお、この活動は、現時点では本会員の年齢構成や  
資金事情からして、今後3年程度を想定したものとし  
てはどうであろうか。

## 事務局より

### 十年史刊行について

第10回定期総会で提案、決定され取り組んできた戦没船を記録する会十年史は、昨年11月に完成、直ちに発送・頒布を始めたが、それ以前に予約申込みが2口2万円あった。11月には90口39万円、12月29口21万円、1月21口7万円の収入があった。12月には全日本海員組合の50冊10万円が含まれている。特に理事会や編集委員会での1万円カンパの要請で24名のご協力をいただき、5冊、10冊単位で引き受けてもらった。会員の中からも大勢の方々に、頒布価格以上のカンパをお送っていただいた。そのため印刷費、発送費等を上回る収入があった。国会図書館はじめ各地の図書館、友誼団体その他への寄贈が約60ほどあったが、100冊余の残部については、今後とも頒布を進めていくこととする。

### 資料、記録の整理について

船舶通信士労働組合から600万円を寄付していただいたことにより、今後、幾つかの事業に取り組むこととしている。

まず、従来から収集してきた戦没船アルフォートの整理と新規作成は、展示会などで展示したもののうち、展示中に落下して、あるいは輸送中に破損したものの新替えと、新たに発掘された戦没船写真＝主に拿捕船のアルフォート作成を予定している。またそれらのアルフォートを統一規格のパネルに作り替える予定である。

本会が作成し使用してきた展示用パネル(写真、図、表、記録文書、絵画、年表など)を、統一規格のパネルに作り替える。系統別に組合せ、組み立てて展示会等で利用しやすいように作り上げる。

戦没船員名簿、日本船名録(昭和17年度、20年度)、職没船名簿、徴用漁船名簿などをデータベース化し、戦没船員、戦没船(漁船・機帆船含む)の相互関連、地域別分布などの調査や検索を容易にし、有効活用できるようにする。

ホームページを立ち上げて、前記資料や本会の「会報」を閲覧できるようにする。既に徴用漁船名簿(約4千隻)が完成し、日本船名録、戦没船員名簿の入力作業が(業者に依頼して)始まっている。日本船名録は3月、戦没船員名簿は6月に完成する予定。

戦没商船に比べて、戦没漁船・機帆船の調査が進んでいないことから、可能な限りの調査を行い記録を残すこととする。(本紙別項参照)

これらの費用は、通信士組合からの寄付金による

こととし、「特別資金細則」を設けて運用することとしている。

本文末尾に掲載した収支計算書では、この特別資金を一般会計に含めているが、3月から特別会計の支出が始まるので、第11年度決算では、別会計として処理することとしたい。

### 会計報告について

現時点では本年度全部の報告が出来ないので、従来各年度と合わせて参考になるように、本年度は2月までのものを報告した。

収入では、会費収入が特に賛助会費で半減している。寄付金では通信士組合からの600万円の寄付が目立つ。この寄付金は今後特別会計として運用する。事業収入では、「戦没船を記録する会十年史」と、委託頒布した「日本海軍特設艦船正史」の収入が殆どである。雑収入では、十年史印刷代の支払のため、海労ネットの特別闘争資金から20万円を借り入れたもので、年度内返済を予定している。

従って次年度への繰越しは、特別資金を除くと、過去最低の20万円程度になりそうである。

以上のような財政事情なので、会費納入に格段のご協力をお願いしたい。

支出では、交通費が気仙沼展の旅費の一部を支払ったため多いこと、事業費が事業収入に比例して多いこと、従って支出総額が前年の倍以上になっていることなどが特徴である。

(篠原)

## 年度別収支計算書

戦没船を記録する会

基本会計 (04年度は2月まで)

科目	02.4-03.3	03.4-04.3	04.4-05.2
繰越金	150,000	150,000	150,000
入会金			
合計	150,000	150,000	150,000
一般会計			
会費	347,000	300,000	312,000
賛助会費	127,000	119,000	68,000
寄付金	331,800	41,500	6,068,000
事業収入	2,000	31,200	940,350
雑収入	63	15,222	200,013
収入計	807,863	506,922	7,588,363
前年繰越	184,568	527,226	412,234
総計	992,431	1,034,148	8,000,597
通信費	46,890	89,000	95,650
会議費	29,950	17,250	33,650
交通費	2,600	2,300	127,300
印刷費	34,880	89,885	95,370
事業費	49,319	82,537	879,788
事務所費	240,000	240,000	220,000
雑費	61,566	100,942	92,949
支出計	465,205	621,914	1,544,707
繰越金	527,226	412,234	6,455,890